

【日本農業新聞 2014年2月17日付～2月23日付の紙面から】

<コメント>

TPP交渉が重大な局面を迎えている。この週は17日からシンガポールを舞台に首席交渉官会合が、22日から閣僚会合が始まった。同時に17日から東京では日米実務者協議も始まった。大舞台のシンガポールの動きだけでなく、東京での交渉の推移にも目が離せない。交渉がどういう決着となるか予断を許さない状況だ。安倍政権は前のめり姿勢が目立つだけに、国益が確保できるか心配だ。

<概要>

■ TPP ヤマ場 譲歩案の提示示唆／担当相と自民委員長 米の動き見極め

【2月18日付1面】

TPP交渉は今週、大きなヤマ場を迎える。22日からシンガポールで開かれる閣僚会合を前に、17日から同国で首席交渉官会合が、18日からは東京都内で日米実務者協議が始まる。甘利TPP担当相と自民党の西川TPP対策委員長は、米国の譲歩を条件に日本も一定の譲歩案を示す可能性を示唆した。

■ TPA 早期可決黄信号 米議会 委員長に慎重派 与党も反対派続出／TPP交渉影響必至

【2月18日付3面】

米政府に貿易交渉の強い権限を与える「大統領貿易促進権限（TPA）」法案の早期成立に黄信号がともっている。議会上院で審議を担当する財政委員会委員長が、同法案に慎重とみられるワイデン氏（民主党）に交代。また与党・民主党の幹部が、相次いで同法案に反対を表明しているためだ。米政府がTPP交渉で身動きが取れなくなる可能性もある。

■ TPP 日米協議 担当相 聖域で譲歩も／決議、公約違反の恐れ

【2月19日付1面】

TPP交渉をめぐる日本と米国の実務者協議18日、東京都内で始まった。甘利TPP担当相は同日の会見で、関税区分の細目（タリフライン）で586ある農産物の「重要5品目」について、「一つ残らず微動だにしないということでは交渉にならない」と述べ、米側の出方次第で譲歩する考えを表明した。

■ TPP交渉で米国 聖域 強硬姿勢崩さず／前のめり日本につけ込み

【2月20日付1面】

TPP交渉をめぐる日米協議で米側は、日本の重要品目を含む農産物関税に対して強硬な姿勢をとり続けている。甘利TPP担当相は米側の出方次第で譲歩案を示す考えだが、日本の前のめり姿勢につけ込み、米側がさらに過大な要求をしてくる恐れがある。政府には、国会決議を順守した交渉があらためて求められる。

■ 韓国のTPP参加／日本と事前協議へ

【2月20日付3面】

TPP交渉参加を目指している韓国が、参加12カ国のうち日本と来月初めに事前協議を行うことで合意したと、韓国の聯合ニュースが19日、伝えた。韓国国内では米韓FTAへの反発が根強く、強い抗議の声が上がりそうだ。

■国会決議守り抜け TPP 緊急全国集会／政府姿勢に不安感

【2月21日付1面】

J A 全中と全国農業者農政運動組織連盟は20日、東京都内で、「TPP 閣僚会合において国会決議を実現する緊急全国要請集会」を開いた。シンガポールで22日から開かれるTPP 閣僚会合を前に、農産物の重要品目など「聖域」の確保を求めた国会や自民党の決議を順守することが国民との約束であることを政府・与党に念押しした。

■脱退辞さぬ決意で／自民議連 譲歩の動きけん制

【2月21日付1面】

自民党の議員連盟「TPP 交渉における国益を守り抜く会」（森山口会長）は20日、政府に対し、TPP 交渉で農林水産分野の「重要5品目」などの聖域確保を求める国会や同党の決議を守り抜くよう、全会一致で決議した。国会・党決議は「脱退を辞さないものとする極めて重い決意を込めている」と強調した。

■国会決議順守 念押し／全中会長 首相に要請

【2月22日付1面】

J A 全中の萬歳章会長らは21日、東京・永田町の首相官邸を訪れ安倍首相に、シンガポールで22日から開かれるTPP 閣僚会議で、農産物の重要品目などの聖域確保を求めた国会や自民党の決議を守ることを念押しした。要請書を手渡した萬歳会長によれば、安倍首相は「厳しい交渉だが、決議に沿って頑張る」と述べた。

■TPP 閣僚会合 決議違反は許さぬ／民主が声明 政府の交渉「拙い」

【2月22日付3面】

民主党の経済連携・農業再生総合調査会（玄葉光一郎座長）は21日、シンガポールで22日から始まるTPP 閣僚会合が交渉のヤマ場になると見据え、「衆参農林水産委員会の決議にたがうような結論が出ることは断じて許されない」との声明を発表した。政府には「重要5品目などの聖域が確保できないと判断した場合は脱退も辞さないとした国会決議の順守」を前提に「国益が十分確保される結果」を強く求めた。

■TPP 閣僚会合スタート／聖域で日米対立続く

【2月23日付1面】

TPP 交渉参加12カ国による閣僚会合が22日、シンガポールで始まった。25日まで4日間開き、政治レベルで難航分野の打開策を探る。日本から参加する甘利担当相は同日、農産物関税や自動車貿易などをめぐり米通商代表部（USTR）のフロマン代表と当地で会談。交渉全体の進展について甘利氏は「大筋合意にはハードルが高い」との厳しい見方を示しているが、交渉を主導する日米の協議次第で、一気に動く可能性もある。

■米通商代表の情報戦不発／「日本包囲網」幻に

【2月23日付3面】

米国は途上国と知的財産権の保障ルールなどで手を握り、TPP 交渉の妥結には、後は日本が農産物関税で譲歩するだけだという状況に追い込まれるかもしれない——。TPP 閣僚会合を前に、農業の重要品目の開放を迫る「日本包囲網」が米国によって出来上がっているのでは、との警戒が日本政府や一部の農業関係者の間に広がっていた。だが、シンガポールでの首席交渉官会合でふたを開けてみれば、ルール分野の交渉でも参加国間の隔たりは埋まっていなかった。

以上